

ポスドク報告書

苅田 裕也

2024 年 12 月

ドイツの Max-Planck Institute for Evolutionary Biology にてポスドクをしておりました、2016 年度奨学生の苅田裕也です。ポスドク報告書の第四回を提出いたします。

1 (研究) 就職活動

二児の子育てをする中で、海外 (特に非英語圏) での生活に限界を感じ始めました。そこで、日本を中心に次のポジションを探すことにしました。日本の公募は春から初夏に多く、欧米の公募は秋から冬に集中しているため、まずは日本の公募に絞って取り組みました。研究所 (RIKEN、AIST など) のフェローや、大学の助教職が中心です。現在のポジションでの研究と並行して応募作業を進めることはかなり難しく、落ち着いて自分の研究に戻ることができたのは面接がひと段落した 8 月下旬頃でした。応募先に合わせて研究提案の内容を調整することはもちろんですが、面接に進むと相応の時間をかけてスライドを準備し発表練習する必要があるためかなり時間をとられます。3 年以下の任期のポジション (大半がそうですが) だとこの作業にまたすぐ取り組む必要がある、と考えると任期が長いポジションを特に魅力的に感じるようになりました。家族の生活を考えるとなおさらです。当初は 2025 年 4 月の異動を目指していましたが、運良く 2024 年 11 月での着任が決まりました。現在は、東京大学の理学部物理学科に助教として勤務しています。ドイツの冬は厳しいため、その前に引越ができてホッとしています。

2016 年に渡米してからアメリカで 6 年、ドイツで 2 年を過ごし 8 年振りの本帰国となります。ひとりでスーツケースひとつを携えて留学をはじめましたが、家族 4 人で大量の引越荷物とともに帰ることになりました。学部出身大学・学科に戻る形になりますが、新鮮な気持ちで研究や学生指導に取り組んでいきたいと思います。

2 生活

一年以内に引越す見通しとなったため、夏から秋にかけては近場の観光地へ精力的に出かけました。Rostock や Bremen といった観光都市や、近隣の遊園地・動物園などを満喫しました。

ドイツ生活の中で子連れで生活・旅行する上で車は必需品であり、車内の汚れやキズひとつにも思い出があります。帰国直前に愛車を売却する際には感傷的な気分になり、不要になったナンバー

プレートを買って受けることにしました。現在は日本の家に飾っており、見る度にドイツ生活を思い出しています。



Rostock 旅行の帰りに立ち寄った Schwerin 城。



愛車のナンバープレート。

3 最後に

2016 年から書かせていただいていた報告書ですが、おそらく今回が最後になるかと思います。船井情報科学振興財団のみなさまからは、留学開始前から長らく温かいご支援をいただきました。留学で得られた貴重な経験の数々はまさに財団のサポートのおかげであり、この場で改めて感謝申し上げます。今後も奨学生 OB の名に恥じぬよう、海外交流や留学生支援に取り組み、経験を社会や若者へと還元していきたいと考えております。